

ポジトレジンを追加し、臼歯部を暫間固定して外傷性咬合の軽減を図った後、歯周治療を実施した。ブラキシズムの対処としてナイトプレートを使用させている。今後も咬合管理を含めたSPTを継続していく予定である。犬歯誘導とグループファンクションの選択については未だ統一見解はない。今回の症例においては犬歯の咬耗によりグループファンクションに移行し、加えて犬歯の骨吸収がほとんど見られなかったため、レジンを追加し犬歯誘導を回復させた。一方、犬歯の歯周炎が進行している場合にはグループファンクションを選択するのが妥当であろう。

【結 語】不良な犬歯誘導がリスク因子として関わり臼歯部の慢性歯周炎が増悪した症例の診断および治療経過の詳細を報告した。

15) 奥羽大学歯学部附属病院における最近の初診患者の動向

○清野 晃孝, 小松 泰典, 渡邊 崇
成田 知史, 保田 穰, 杉田 俊博
(奥羽大・歯・附属病院)

【目 的】奥羽大学歯学部附属病院は、歯科医療に求められる、安全で安心な医療サービスの充実が心がけており、ニーズの多様化に対応すべく各種専門外来を設け、地域医療機関からは、検査および特殊な疾患の治療などの依頼を受けている。

そこで、本院の現況を再認識すべく、震災から3年を経過した今、初診患者の動向について調査したので報告した。

【調査方法】対象は平成26年7月1日から9月30日までの3か月において予診科に来院した初診患者の中で同意の得られた221名である。

アンケート調査項目は、性別、年齢、職業、住所、主訴、交通手段、当院選択理由の7項目とした。

【結果および考察】

1. 女性がわずかに多く、54%を占めた。
2. 年代別では、30代から60代が多く、それぞれ18%程度であった。
3. 職業は男女ともに会社員が30%前後を占めた。
4. 住所は60%が郡山市内であり、他の地域はわずかであった。

5. 主訴は歯痛が最も多く、他は15%以下であった。

6. 当院を選択した理由は、家族・知人からの紹介が35%を占め大学病院であることも要因であり、他院からの紹介は6%にとどまることが示された。

今回の対象者は、他院からの診療情報提供1において口腔外科を紹介先に行っている場合および中学生までの子供は除かれており、ほぼ総合歯科の患者が該当したといえる。そこで年齢が高齢者のみならず、30、40代が多かったことが示された。そのため、住所は郡山市を中心とした地域が大半であり、交通手段は自家用車がほとんどであった。また主訴は歯痛が多く、口腔外科系の疾患は他院からの紹介が多いことが推察され、当院を選択した理由として、家族、知人の紹介や以前に通院した経験が多く示されたことは、大学病院としての信頼性はあるが、奥羽大学だからとの「評判」にまでは至っていないことが示された。

16) 総合歯科における歯科診療特別対応の流れ

○佐々木重夫, 永田 裕紀, 清野 晃孝, 佐藤 穂子
菊井 徹哉, 伊藤 歩, 雨宮 幹樹, 中條 雅人
山本 雄介, 渡邊 崇, 高橋 範之, 佐藤 光一
宗像 佑弥, 鈴木 翔, 杉田 俊博
(奥羽大・総合歯科・歯科診療特別対応グループ)

【目 的】本学歯学部附属病院は福島県における歯科医療の第三次医療機関として障害者の歯科診療を行っているが、障害者の歯科治療に特化した講座や教室は存在していない。そこで、平成11年(1999年)に附属病院障害児・者歯科診療担当者連絡会を発足し、障害者に対しては保存系・補綴系の歯科医師が中心のチーム診療として対応している。これまでに担当チーム数や担当歯科医師の入れ替わりなど変化も多く、平成24年4月からは名称も障害者診療グループから歯科診療特別対応・口腔機能維持管理グループへ変更になった。今回は障害者の歯科治療に対応している本学のチーム診療を把握する目的で、現時点における利点と問題点ならびに解決策について報告する。

【方 法】本院に初診来院する障害者は保護者・付添者や看護師が独自で来院してきた者の他に患